

【一】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

小学校六年生の瀬川大介は、自分一人から流れ出るその人の「気配の色」を見ることができると思い込んでいる。夏休み、両親とけんかして家出した大介は、ひよんなことから隣家に住む老人佐藤北海と旅をすることに。この日は、旅のちゅうで出会った高村誠の運転するトラックに乗せてもらっている。

ハンドルを軽くさばきながら、彼は楽しそうに見えた。

楽しいのだろうか。大介は父の言葉を頭の中で反芻して、考へ込む。父の主張が正しいならば、高村は今こうしてトラックを運転している現状を、好ましいものではないと捉えていなくてはいけない。なのに、全然そういう感じではない。

ふうと吐いたたばこの煙が、窓の外の風にまぎれてたなびいていく。

「高村さん」

「おう、なんだ？」

「高村さんは、子どものころからトラックの運転手になりたかったの？」

「いや、特になんとも思ってたなかつたなあ」

「じゃあ、なんでなったの？」
大介の左横で北海が鼻から息を抜く。「そうだな、おまえはこの間も怒られていたもんなあ」

「こんなんじや、いい大学に行つていい会社に入れない。おまえは将来工場のねじまきや……」大介はポケットに手を入れて、中のナイフに触れる。「トラック運転手になりたいのか、つて」

ああ、やつぱり言わなければよかつた。怒りにまかせて、高村の右足が急にアクセルをベタ踏みしたらどうしようか。運転が荒くなつたら、きつと酔つてしまう。そればかりか事故になつたら。大介はやつぱり何と言われても黙つておくべきだつたと、激しく後悔しながらハンドルを握る右手を見た。

*注 池田昭三の空き家の前で北海を取り囲んだのと同じ紅蓮が、高村の指から進り出た——大介は見た、確かに一瞬その色を。

なのに高村は、まるで気にする様子もなく笑い飛ばしたのだつた。

「そうか、大介の父ちゃんはそんなことを言うのか」

笑い声が、目にしたはずの紅蓮を幻にする。大介は

「3 高村は短くなったハイライトを灰皿で潰し、片手でハンドルをソウサしながらもう一本に火をつけた。父ちゃん、なにしてんだ？」

なにしてんだは、この場合、仕事のことと違くない。大介は混乱から来る動揺を自らの意思で鎮めようと試みながら、父がツトめる保険会社の名前を言った。

あの父の A が、隣家の北海にも聞こえていたのだ。夏場で窓を開けていたせいだ。

高村が「大介が怒られたのと俺がトラック運転しているのが、なんか関係あるのか？」と訊いた。

大介は「1 関係を説明するには、父がどんなことを言つて怒つたのかを話さなければいけない。高村が聞けば気を悪くするだろう。」

けれども高村は陽気に、「なんだよ、言えよ。教えてくれよ」と大介をせつついた。

困つた、どうすればいいだろう。

助けを求めるように左横に目を動かしても、北海は反応してくれない。しつこい高村に根負けして、大介は「2 僕」

「僕の成績が悪いと、お父さんは怒るんだけど、怒り方がいつも同じで、言うことも一緒なんだ」

「親は怒るよなあ。俺も良くなかつたから覚えがあるぜ。で？」

「おー、すげえでかい会社だなあ。そりやあ周りからはいい会社にとめてるなつて言われるし、給料もいっぱいもらえんだらう、俺よりは」

父の給料がどれくらいなのか、大介には見当もつかないが、少なくともははずだつた。お小遣いやお年玉の額は、漏れ聞こえてくる級友たちのものより多かつた。父も工場の作業員や運転手よりも、儲けが良く稼いでいる自信があるから、侮蔑的なことも平気で口にするのだ。

改めてそんな父に反発を覚えていたら、高村がハイライトの煙とともに言葉を吐き出した。

「でも俺は、こいつで走るんでいいなあ。もしよ、おまえの父ちゃんの会社に入れてくれるつて言われても、断つちゃうなあ」
ラジオから流れてくる楽しいな流行歌を、共に口ずさむように。

「性に合わねえつてやつかな。小難しいことはわかんねえけどさ」

顎をしゃくるようにして、高村はフロントに置いてあるハイライトの一箱を示してみせた。

「大介、おまえ、このたばこ一つ、いくらするか知つてるか？」
大介は近所のたばこ屋の店先を、記憶の海から引き揚げる。あそこに値段は書いてあつたか？、あるいは自動販売機の表

示は。

「百円くらい？」

「今年の四月に百五十円になったよ。三十円値上げしやがった」

「三十円なら大したことないね」

遠足のおやつを買うとき、きつちり上限の三百円まで使い切るには、ある種の工夫が必要だ。食べたいおやつだけでは、どうしてもちよほどにはならない。そんなとき、五円や十円の小さなチョコレートやキャンディ、ガムを見繕う。大介にとつて三十円とは、メインのおやつとおやつの隙間を、そういった駄菓子で埋める金額だ。

しかし高村は、「大介は三十円稼いだことがあるか？」とにやりとした。

「二千円くらい入っていた財布を拾って届けて、半年後に僕のものになったことならある」

「拾うんじゃないよ、自分の体使って、B たらして三十円稼いだことはあるかって」

あるわけがない。小学生なのだ。

とはいえ、「小学生だからそんな経験はない」と言い返すのは、ためらわれるものがあつた。自ら「僕は子どもです」と主張しているようだからだ。

高村だつてそれをわかつて訊いている。その証拠に、口を閉

前の、大介とじいさんが座ってる周り」

そうして大介の両隣で二人ともまた吸いはじめる。明らかに灰皿を満杯にしてやろうという魂胆だ。大介は

《 5 》が、悔しいことに北海はたばこを吸っているから高村の味方だ。仕方なく言われた物入れを開けて、薄いたオルのような布を取り出した。それを折りたたみ、面を替えながら、手の届く範囲をこしごと拭く。席に座つたままでは無理だつたので、大介は腰を浮かせた。トラックはほとんど揺れず、滑らかに走行したので、よろけることはなかった。北海も大介のジーンズの腰を、ぎゅつと掴んでいくれた。

おおむね片づけられているように見えた助手席近辺だが、いざ拭いてみると布はみるみる黒ずんだ。シートの陰にたばこをC ホウソウしていたビニールが落ちていたりもした。

「窓を開けるし、たばこも吸うから、どうしても汚れるのさ」。高村は横で動く大介を上手く避けつつ運転しながら、悪びれずにそんな言い訳をする。

高村が三本、北海が二本ハイライトを短くする間、大介は酔うかもしれないということすら忘れ、かわりになんでこんなことをさせられているんだろうという不条理感を抱きながら、気のいいはずの人使いの荒いあんちゃんの言うとおりにした。最後にたまった吸殻の一つ一つにちゃんと触れ、火はもちろ

ざした大介を見てさらに満面の笑みを浮かべ、ハイライトをいっただん灰皿に置くと、³ 大きな手で帽子ごと大介の頭を乱暴に撫でた。

「じゃあよ、おまえちよつと仕事してみろ」

大介は《 4 》。

「仕事？ なんの？」

C が出ないかと北海に目で訴えるも、北海も先ほどの不機嫌そうな様子はどこへやら、高村と一緒にやってにやにやしている。

「俺、一応大介たちが座るところとかをよ、今日出発する前にきれいにしたんだ。でもすぐぴかぴかになってわけじゃねえだろ。だからよ、その物入れに布きれあるからよ、それで前のほうとか拭いてくれねえかな。あと、灰皿にも吸殻がたまつてきているだろ。きちんと火が消えて冷たくなってるか確認してから、ビニール袋にあげて、俺とじいさんが気持ちよく使えるようにしてくれねえかな」

言つたそばから高村は、吸つていたたばこを灰皿に押しつけて中身を増やした。

「じいさん、一本どうぞ」

「おう、いただくよ」

「後ろはよ、俺の釣竿あるから、そのままでもいいからさ。前な、

ん、熱も冷めていることを確認してから、ビニール袋に灰皿の中身を移した。袋のほうはきつちりと口を結び、空になった灰皿を元あつたところに収めた。

「終わったよ」

「おう、ご苦労さん。その吸殻が入った袋、こつちによこせ」

高村はシートの下からパイナップルの缶を取り出した。缶は空のようだった。ビニール袋は缶の中に押し込まれた。

「じゃあ、給料だ」

高村は握つた左手を押し付けてきた。思わず両手で受け止める恰好を取ると、彼の手は開かれた。

十円玉が三枚、大介の手の中に落ちてきた。

「きれいに掃除してくれてありがとう」

いろいろな人間の手を経てきたのだろう、くすんだ茶色の硬貨をどう取り扱うべきか、大介は少し困つた。たつた三十円、特段うれしくはない。一方でこんなお金はいらないと突っ返す気にもならない。

「どうして金がもらえたかわかるか？」

北海だつた。大介は老人と目を合わせた。彼は時刻表のとあるページを開いたまま膝の上に伏せ、左腕を開け放した窓にかけて頬杖をつきながら、右の人差し指で硬貨を一つずつ突いた。

「こいつの分、あんちゃんの役に立ったからだよ」

北海は高村にバトンを渡す。「なあ、あんちゃん」

「そうだ。大介は俺の役に立った。だからありがとうな、で三十円だ」高村はまた、大介の頭に左手をやった。「俺はおまえの父ちゃんほど頭も稼ぎもよくねえけどよ。これだけはわかるぜ。もし俺がここでトラック放り出して、あれだ、後ろの釣竿持つて海にでも行ったらよ、大阪で積荷のうなぎを待つてる誰かが困るんだ」

「困る？」

「そうだよ。仕事ってのはそういうもんだと俺は思ってるぜ。大きな会社ですげえ仕事をしているおまえの父ちゃんも、おまえの父ちゃんからしたら小馬鹿にしたくなるような俺も、今こころをきれいにした大介も、根っこは同じだ。おまえ、犬のクソをくれたやつにありがとうつて金を払うか？」

「払わない」

「だろ？ 仕事はその逆さ。仕事はよ、どんなにつまんなく見えても、どつかで誰かの役に立っているのさ。ありがとうつて思われている。だから金がもらえるんだ」

4 手のひらの三十円が、少し重さを増したように感じられ、大介はそれをじっと見つめた。

「次のサーブエリアでも、大阪に着いてからでもいいさ。大

介おまえ、その三十円でなんか買ってみるよ。三十円で買えるもんなら、買えるはずだ」

「小さなチョコとか、ガムとか？」

「そうさ。そいつは三十円。誰が持つていようと、三十円の価値がある」

大介は顔を上げ高村を見た。高村はまだ続けた。

「大きい保険会社で働いてもらう大介の父ちゃんの一万円札とよ、トラックを運転してもらおう俺の一万円札をよ、比べてみるよ。俺が持つていくからつて半額にはならねえし、おまえの父ちゃんが持つていくからつて十万円に増えるわけもねえ」高村は新しく火をつけたハイライトを、うまそうに吸う。「真つ当に働いて稼いだ金なら、誰が持つていようが価値は平等だと俺は思うよ。だから、なにがいいも悪いもねえよ」

少ししやべりすぎたなあど照れくさそうにする高村の横顔を見つめながら、大介は彼が言った言葉すべてを頭に刻もうとした。この旅が終わつて家に戻り、怒られる場面になつて、父がまたあの決まり文句を投げかけてきたら、高村が言ったとおりのことを返してみたいと思った。

それに対する父の反応も知りたい、とも。

大介は手の中の三十円を、力を込めて握りしめた。5 手が臭くなるなんてことはどうでも良かった。

この世の中には大勢の人がいろんなことをしてお金を稼いでいる。仕事をしている。

誰かに求められて、誰かの役に立っている。

いつもよりずっと早起きをして乗せてもらったこのトラックを、高村は「今日はゆつくりの出発さ」と言った。深夜から午前三時、四時のほうがトラックは多いと。普段なら大介はもちろんだ大介の父も、まだ眠っている時間だ。その時間に、トラックの運転手は働いていた。

働いているすべての人が、大介には手の届かない大人に思えた。そして生まれてから今までの十二年間で一番身に染みて、自分は子どもだと痛感した。

高村は次のサーブエリアに寄ってくれた。大介は売店で小さなチョコレートと飴玉を三十円分買った。それらは全部食べってしまったが、ハウソウ紙は捨てられなかった。大介はそれを

大事に財布の中の一万円札と一緒にした。

高村は北海と一緒に、トイレ近くの自動販売機で缶コーヒーを飲んでみた。大介は出会った直後にやったように、高村の気配の色を見た。高村はちょうど切れた雲の隙間から降り注ぐ夏の陽光をアびて、気持ち良さ気だった。そんな彼を取り巻くのは、もう黄色みが濃い若葉色などではなかった。しつかりとした意思を持ち、強く厳しく、かつ優しいイメージを与える白銀だった。

6 どうして色が変わったのか理由がわからず、大介は戸惑った。誰かに訊こうにも、気配の色が見えることから説明しなくてはならない。答えが⑤ミチビき出せないまま、大介はただ高村を見つめた。

(乾ルカ『花が咲くとき』による)

*注 池田昭三：旅の初めに北海が訪ねたが会えなかった北海の昔の友人。池田と北海の間には何かわだかまりがあると大介は思っている。

※ 問いで、字数制限のあるものについては、すべて、や。や。」も字数にふくみます。

問一 次の説明を読んで、本文中の [A] [C] に入る語を書きなさい。

A：頭ごなしにどなりつけること。「[A] を落とす」などと言う。

B： [B] を流す」とも言い、苦勞をいとわず一生懸命けんめいに働くという意味。

C：人が困っているときに力を貸すこと。「[C] を出す」などと言う。

問二 ……線部 a 「見当もつかなかった」・ b 「聞こえが良く」を、それぞれわかりやすく言いかえなさい。

問三 ≪ 1 ≫ ≫ ≫ 5 ≫ に入るものを、それぞれ次のアから選んで、記号で答えなさい。

ア 腹を決めた イ 目を見開いた ウ 口をつぐんだ エ 文句を言いたくなった オ 混乱した

問四 — 線部 1 「全然そういう感じではない」とありますが、「そういう感じ」とはどういう感じですか。

問五 — 線部 2 「大介は見た、確かに一瞬その色を」とありますが、大介は高村がどんな気持ちになったと思ったのですか。本文中から一語でぬき出して書きなさい。

問六 — 線部 3 「大きな手で帽子ごと大介の頭を乱暴に撫でた」という行動が表している気持ちとしてもっともふさわしいものを、次のア～オから選んで、記号で答えなさい。

ア 腹立ち イ 親しみ ウ 情けなさ エ ためらい オ 意地悪

問七 — 線部 4 「手のひらの三十円が、少し重さを増したように感じられ」とありますが、「少し重さを増したように感じられ」る前は、大介は「三十円」をどのようなものだと感じていましたか。「もの」につながるように、文章中から七字と九字でぬき出しなさい。

問八 — 線部 5 「手が臭くなるなんてことはどうでも良かった」のは、なぜですか。四十字以内で説明しなさい。

問九 — 線部 6 「どうして色が変わったのか理由がわからず、大介は戸惑った」とありますが、どうして「色」が変わったと考えられますか。

問十 — 線部 ①～⑤のカタカナを、それぞれ漢字に直しなさい。(一点一画をていねいに書きなさい。)

【二】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

米国の現職大統領として初めてとなる2016年5月27日のオバマの広島訪問の日程が5月10日に発表されると、日米両政府やメディア関係者の間で一つの時刻が広まった。「19時14分」。5月27日の広島の日没の時間だった。オバマが参加する平和記念公園での式典はどんなに遅くても19時14分までに終わるだろうという認識の共有だった。

オバマが広島を訪れる5月27日は、三重県志摩市での主要国①シヌノウ会議（伊勢志摩サミット）の閉幕日でもある。ホワイトハウスの記者団は、オバマより先に同日朝に愛知県の中部国際空港を経由してチャーター機で米軍岩国基地に飛んだ。経路はオバマと同じだ。

機中は、普段は笑い声が絶えない陽気なホワイトハウス記者団がいつもよりは静かにみえた。史上初の広島訪問という歴史の重みは記者団にも伝播していた。議長国、日本の首相、安倍晋三はサミット閉幕後の記者会見を終えてからしか広島に向かえない。

オバマ側に日程がないと、オバマが先に広島に到着することになる。米政府は、中部国際空港から米軍岩国基地経由で広島に入るオバマに、岩国基地で米兵を激励する日程を追加した。

「米大統領として米軍の最高司令官であることは、この上ない名誉であると言いたい」。オバマは米兵を前にした演説で、こう切り出した。「私はこれから広島を訪れる。これは第2次世界大戦で命を落としたすべての人々を追悼する機会であり、核兵器を必要としない世界の平和と安全を求める決意をする機会だ」と説明した。

伊勢志摩サミット閉幕後の記者会見を終えた安倍は、中部国際空港経由で海上自衛隊岩国基地に向かい、そこからへり旧広島市民球場跡地に着陸した。平和記念公園のあたりは、オバマを一目見ようと人だかりができていた。車で平和記念公園に移動した安倍は17時25分、オバマを出迎えた。戦後71年、米大統領初の広島訪問の行事が始まった。安倍に出迎えられたオバマは17時27分、原爆資料館に入った。日米の事前の調整で米国家安全保障担当の大統領補佐官、ライスはオバマが原爆資料館を見学することにA難色を示した。日本側が理由をただすと「国務長官と大統領は違う」の一言。その1カ月前に米国務長官、ケリーは原爆資料館を50分間見学し、こんな記帳を残した。

「世界中の誰もがこの記念館の力を見て感じるべきだ。核兵器の脅威を終わらせるという私たちの責務だけでなく、戦争そのものを回避するためにあらゆる努力を払うべきだということを明白に厳しく思い起こさせる」

「2 決して最初に選んではならない。世界を変えるための努力を積み重ね、平和を求め、すべての人に希求される未来をつくるよう懸命に努力すべきだと記念館は私たちに強く訴えている」

ライスは日本側を困惑させたのは、オバマの原爆資料館行きに慎重な態度をとりつつ、オバマの記帳は残すと言いつたからだ。日本側は駐日米大使のケネディに相談した。ケネディはオバマに原爆資料館を見学すべきだと主張するだけでなく、どんなところをみたほうがいいかまで進言した。

オバマはケネディの意見に②シタガった。ケリーの時と同様、原爆資料館内の取材は非公開となった。原爆の悲惨さを伝える展示物を見たオバマがするであろうB神妙な表情を撮られたくなかった。その表情をみれば、オバマの心の内はすべてわかってしまうからだ。

オバマの見学時間は10分。資料館側は1階のロビーに厳選した資料を集めた。オバマが関心を寄せたのは、被爆が原因で白血病を発症し、1955年に12歳で亡くなった佐々木禎子さんが折った鶴だった。佐々木さんは亡くなるまでの8カ月間、病床で鶴を折り続けた。オバマは自ら折った4羽の折り鶴を奇贈した。

原爆資料館を出たオバマと安倍はゆつくりと原爆慰霊碑へ歩き始めた。強い西日と、③イッタイを支配する厳粛な空

気。濃紺のうこんのスーツに身をまとう身長185センチのオバマと、175センチの安倍の背筋は一段とまっすぐに伸びているようにみえた。17時38分、オバマが原爆慰霊碑けんかに献花、10数秒間、目をつぶった。

そこから10メートルあまり離れた場所はなで取材する機会を得た。オバマの息づかいも聞こえるような距離きょりだった。

17時41分、オバマの演説が始まった。ホワイトハウスは訪日前、オバマのこの演説について、米国家安全保障会議(NSC)アジア上級部長のクリンテンブリंकが「数分間、所感を示すだけ」と説明していた。演説えんせつといえ、3米国内の反対派はんたいはを無用に刺激しげきしかねないとの判断があつたのか。

クリンテンブリंकはオバマの広島訪問後、日本経済新聞の取材に「どうして『所感』から『演説』に変わったかは分からない。(推敲すいこうするうちに)自然に長くなったのだろう」と答えた。オバマが大統領副補佐官、ローズの書いた草稿そうごうに何度も手を入れた経緯けいゐからすると、最初から演説するつもりで④ジュンビジュンビしていた。

「71年前のよく晴れた雲のない朝、空から死が降ってきて世界は変わった」。オバマは演説でこう切り出し、「この空に上がったキノコ雲の姿は人類が持つ矛盾むじゆんを強く思い起こさせる」と語った。広島訪問について「亡くなった10万人を超え、日本人、数千人の朝鮮半島出身の人、捕虜ほりょになった十数人の米国人を追悼するためだ」と述べ、原爆の犠牲ぎせいになったすべての人を追悼した。

「あのひどい戦争やそれまでの戦争、そして未来の戦争の罪なき犠牲者全員に思いを寄せる」と語り、すべての戦争の犠牲者に哀悼あいとうの意を示した。核廃絶はいせつの目標に関して「私の生きていくうちには達成できないかもしれない。だが、たゆまぬ努力で惨劇さんげきの可能性を後退させることはできる」と訴えた。

そのうえで「いつか証言してくれる被爆者の声を聞くことはできなくなるが、1945年8月6日朝の記憶きおくは決して消えてはならない。⑤この記憶で我々は独りよがりではいられなくなる」と指摘してき。「紛争かんそうを外交手段で解決する努力をしな

ければならない」と続けた。最後は「広島と長崎は核戦争の夜明けとしてではなく、私たちの道義的な目覚めの始まりとして記憶されるだろう」と締めくくった。

オバマの後に演説した安倍は「米大統領が被爆の実相にふれ、核兵器のない世界への決意を新たにすることで、核なき世界を信じてやまない世界中の人々に大きな希望を与えてくれた」と述べ、核廃絶の進展に期待を示した。

現職大統領初の広島訪問が実現したことを、「歴史に新たなページを刻むオバマ大統領の決断と勇氣に心から⑥ケイイを表したい」と評価した。

安倍の演説が終わると、オバマと安倍は式典に参加していた被爆者に近づいていった。オバマの広島訪問に際し、関心が集まっていたのは演説の内容とともに、オバマと被爆者との対面が実現するかどうかだった。日米の外交当局は早い段階から「オバマと被爆者の面会はない」という情報を流しつつ、自然な形で対面を探った。

式典に出たのは、日本原水爆被害者団体協議会(被団協)代表委員の坪井直つばいすなおさん。20歳の時に広島の爆心地から1.2キロメートル離れたところで被爆し、何度も生死をさまよった。中学校教員を定年退職し、国内外で被爆体験を語っている。

オバマは最初に坪井さんと右手で握手あくしゅを交わすと、演説中は険しかった表情が徐々に綻ほころんだ。坪井さんが「大統領退任後も広島に来てください。核兵器のない世界に向けて、あなたとともに頑張がんばろうと思う」と通訳かいてを介して訴えると、「サンキュー」とうなずいた。

自らも被爆者で、被爆した米兵捕虜の研究をしている森重昭もりしげあきさんと向き合った際には、涙ぐむ森さんの肩かたを強く抱だきしめた。いたわるように森さんの背中をさするようになしぐさをみせた。

クリンテンブリंकは日本経済新聞の取材に、被爆者との対面について日本側との協議で事前に計画していたと明かし

た。「大統領が被爆者と握手し、ちよつと話す計画だったが、(森さんとの)抱擁は大統領の自然で自発的な行動だった」と述べた。オバマが森さんを抱きしめた瞬間、周囲からはすすり泣く声が聞こえた。ライスの目にも涙が光った。被爆者との対話を終えたオバマは、安倍とともに元安川越しに原爆ドームを見た。その道すがらオバマは安倍に漏らした。「⁶広島に來られて本当によかった」

(吉野直也『「核なき世界」の終着点』による)

※ 問いで、字数制限のあるものについては、すべて、や。や。」も字数にふくみます。

問一 —— 線部1「機中は、普段は笑い声が絶えない陽気なホワイトハウス記者団がいつもよりは静かにみえた」理由としてもつともふさわしいものを、次のア～オから選んで、記号で答えなさい。

- ア 現職大統領よりも先に広島に向かっていることに、申し訳ないという気持ちを持っていたから。
- イ 現職大統領の広島訪問という歴史的出来事で、事件が起こる可能性に大きな不安があったから。
- ウ 現職大統領が広島を訪問することで、米国内での反対派の活動が活発化することを恐れたから。
- エ 現職大統領が初めて広島を訪問するという歴史的出来事に立ち会うことに、緊張していたから。
- オ 現職大統領の広島訪問については、この記者団の中には反対の気持ちを持つ人が多かったから。

問二 ……線部A・Bの言葉の意味としてもつともふさわしいものを、それぞれ次のア～オから選んで、記号で答えなさい。

A 「難色を示した」

- ア 不賛成だという態度をとった
- イ 不愉快だという態度を示した
- ウ 無礼だということ伝えた
- エ 不可能だということ説明した
- オ 難しいがやってみようと話した

B 「神妙な表情」

- ア 自信を深めて緊張しているようす
- イ 不思議なものを見るような驚きのようす
- ウ 恐ろしくて真っ青になっているようす
- エ 胸を打たれて素直になっっているようす
- オ 怒りがおさえられないでいるようす

問三 —— 線部2「決して最初に選んではならない」について、

1 何を「選んではならない」のですか。十字以内で答えなさい。

2 —— 線部2はケリー國務長官の言葉ですが、オバマ大統領の演説の中で、—— 線部2と同じ内容を述べていると思われる部分を二十五字以内でぬき出し、初めの五字で答えなさい。

問四 — 線部3「米国内の反対派」については、本文と同じ本の中にAのような文章があります。Aの文章と、そのことに関連するBの文章を読んで、後の1〜3に答えなさい。

A

米大統領の広島訪問の話題が出るたびに語られるのが、1995年の出来事だ。首都ワシントンのスミソニアン航空宇宙博物館は広島に原爆を投下した爆撃機エノラ・ゲイを復元し、戦後50年に当たる95年に展示を計画した。来館者が原爆投下による被害も分かるようにする予定だった。退役軍人や米議会から批判が上がり、計画は撤回に追い込まれた。エノラ・ゲイは機体の一部の公開にとどまった。原爆被害への説明はなかった。原爆投下を肯定する米国世論を映した挿話だ。(中略) それでも今回、オバマが訪問できたのは、米国世論の変化があったからだ。米世論調査で1945年に原爆投下の支持は85%あったが、最近は50%台になった。世代が若くなればなるほど支持は減る。「原爆投下は間違っていた」。こう明言するホワイトハウス高官もいる。

B

一方で、日本国内にも「アメリカ大統領の被爆地(広島や長崎)訪問」に、被爆者の方たちを含めて反対している方たちがいます。その意見は、「子どもや老人も含む一般市民を無差別に殺した原子爆弾は、決して許されることのない『絶対悪』である。だから、その核兵器を使用した米国の大統領は、被爆地に来たならば、まず謝罪しなければなりません。謝罪をしないのであれば、広島を訪問してほしくない。」というものです。しかし同時に、多くの被爆者の方々や広島的一般市民は、「核兵器が二度と使われないようにすることが何より大切で、もう米国からの謝罪は求めな

い。世界の中で発言力を持つ米国の大統領が、この広島を訪れて核兵器の実相を知り、共に手を取り合って核兵器廃絶に向かって力を尽くしてほしい。そのために広島に訪問してほしい。」と訴えてきました。

1 「米国内の反対派」とは、どういう考えの人たちですか。

2 Bの——線部のように、日本国内にも反対派の人たちがいます。その人たちは、なぜ米国の大統領の広島訪問に反対するのですか。わかりやすく説明しなさい。

3 大統領の広島訪問を望む人たちと、オバマ大統領の気持ちが通じ合えたと思われる場面を本文中に探して、その場面を描いた部分の初めと終わりのそれぞれ七字をぬき出して答えなさい。

問五 — 線部4「矛盾」とは、どういう「矛盾」ですか。もっともふさわしいものを、次のア〜オから選んで、記号で答えなさい。

- ア 科学技術が人類を追悼するということ
- イ 科学技術が人類を不幸にするということ
- ウ 科学技術が人類を競争させるということ
- エ 科学技術が人類を豊かにするということ
- オ 科学技術が人類を戦争にかりたてるということ

問六 ——線部5「この記憶で我々は独りよがりではいられなくなる」とは、どういうことですか。五十字以内で説明しなさい。

問七 ——線部6「広島に來られて本当によかった」とありますが、「來られて」の「られ」と同じはたらきの「られ」を、次のア〜オから二つ選んで、記号で答えなさい。

- ア 明日は担任の先生がぼくの家に来られる。 イ 深夜に熱を出した母の容態が案じられる。
ウ 父はどんなにからいものでも食べられる。 エ 交差点でおばあさんから声をかけられる。
オ ぼくは右手でも左手でも球を投げられる。

問八 ——線部①〜⑤のカタカナを、それぞれ漢字に直しなさい。(一点一画をていねいに書きなさい。)

(※のらんには何も書かないこと。)

問八		問七	問六			問五	問四			問三	問二	問一
① シユ	ノウ						3	2	1	1	A	
							初め					
② シタガ	つた											
③ イツ	タイ						}	終わり				
④ ジュン	ビ											
⑤ ケイ	イ											
		※	※				※				※	

問十	問九	問八	問七	問六	問五	問四	問三	問二	問一
① ソウ									A
									1
② ツト	める								B
									2
③ ホウ	ソウ								C
									3
④ ア	びて								
									4
⑤ ミチビ	き								
									5
		※	※				※		

受 験 番 号		

合 計	
	※